1979
［昭和54年］

■ セシリアホール外観

6月11日　エリザベトコンサートⅠ。（広島市公会堂）
　　－ピアノリサイタル－
7月　1日　**エリザベト音楽大学ホール（セシリアホール）竣工式。**
10月　1日　**セシリアホールオープニングコンサート。**
　　－モンセラット・カバリエ、ソプラノリサイタル－
10月12日　エリザベトコンサートⅡ。
　　－パウル・バドゥラ＝スコダ、ピアノリサイタル－
11月5～7日　第32回定期演奏会及び演奏旅行。
　　（名古屋、静岡）
　　ハイドン：《パウケンミサ曲》他
12月10日　クリスマスコンサート。（世界平和記念聖堂）
　　バッハ：《クリスマス・オラトリオ》第6部他

■セシリアホール内部（オルガン設置は2年後）

■セシリア像（船越　保武作）

■モンセラット・カバリエ

セシリアホール竣工　26期　小坂　哲也

創立以来のザビエルホールが取り壊しになり、待望のセシリアホールが完成するまで、入学式、卒業式をはじめ、新入生歓迎会、大学祭、クリスマスパーティー等の行事、混声合唱、合奏、学内演奏会等の授業も、聖堂や教室等で行われた事がとても懐かしく思い出されます。

4年生の秋、セシリアホール「こけら落し」でのモンセラート・カヴァリエ女史のコンサートは、華麗な歌声が、新しいホールに響き渡り、心に残るとても素晴らしいものでした。

我々第26期生にとって、定期演奏会、卒業演奏会を、真新しいステージで経験し、セシリアホールで初めての卒業式を迎えられた事は、誇らしい思い出となっています。

創立50周年を迎えるにあたり、母校の益々のご発展を、心からお祈りいたします。

4月 1日　音楽専攻科開設。
4月30日　ガルシア・リョベラス公開講座。
「スペイン・オルガン音楽について」。
5月31~6月1日　第9回大学祭。テーマは「熱情」。
6月30日　エリザベトコンサートⅠ。(世界平和記念聖堂)
−テノール、オルガン−
7月19~23日　スペイン音楽週間。
−ヴァイオリン、ギター、ソプラノ、フルート、ピアノ−
7月24日　「日本グレゴリオ聖歌研究協会」設立。
10月 8日　エリザベトコンサートⅡ。−ホアキン・ソリアーノ、ピアノリサイタル−
10月22日　本部棟起工式。
11月4~6日　第33回定期演奏会及び演奏旅行。
(福山、岩国)
グレゴリオ聖歌他
12月 8日　クリスマスコンサート。(世界平和記念聖堂)
ヴィヴァルディ:《マニフィカト》他
指揮:高橋正道

■クリスマスパーティにおける教職員聖誕劇

■卒業演奏会

■クリスマスパーティにおける教職員聖誕劇

昭和55年専攻科1期生の思い出　20期　片桐　悦子(谷口)

仕事に就いて8年。勉強の足りない所も見え、そろそろ学生生活が恋しくなって来た頃大学に専攻科が出来ると聞き駄目で元々と申し込んで見ました。運良く入学を許可されしかも昔下宿していた所に又下宿して、まるでタイムスリップした様な1年でした。始めは胡散臭(うさんくさ)そうに警戒していた下級生ともいつしかぺちゃくちゃおしゃべり。勉強はと言うと身の程知らずに一杯選択したので、朝から仏語・英語・ギリシア語(何故かヘブライ語まで)辞書と首っ丈なんて事も…。ピアノの練習時間に遅れると「そんな事で良いのですか。」と下級生にお説教され吃驚(びっくり)。何もかも夢の様で、全て半ばで終ってしまった感じなのですが、兎に角青春を満喫する事が、出来ました。過ぎ去って初めて気付くのですが、「音楽って何」を求めてただその事のみに打ち込める学生時代は、最も幸せな時間の一つだと思います。又機会があれば、又々チャレンジしたいと思うのですが…。

昭和55年の思い出　27期　高田　裕和

1980年(昭和55年)12月21日、ローマ教皇ヨハネ・パウロⅡ世の史上初の訪日が公式発表された。広島訪問が決定された時テホン学長は、大学あげて世界平和記念聖堂での聖歌奉仕を準備されたが、諸般の事情により大学としての参加は果たせなかった。

1981年(昭和56年)2月25日、小雪がちらつく寒さのなか、平和公園での行事を終えられ、世界平和記念聖堂にお着きになった教皇様を、現在のホール1階教会側駐車場に面した入口で、"Tu es Petrus"を歌ってお迎えしたが、教皇様の位置からは距離があり、お姿さえはっきり見えない状況であった。テホン学長の非常に無念そうな表情が、今でも目に浮かぶ。

数日後、宗教音楽学科の卒業演奏会は、あの日のままに保持された世界平和記念聖堂で行われ、最後にテホン学長司式のもと、宗教音楽学コース学生全員で聖務日課・「終課」"Completorium"が捧げられた。

1981
［昭和56年］

2月25日　**ローマ教皇ヨハネ・パウロⅡ世来広。**
3月 1日　『エリザベト音楽大学研究紀要』創刊。
4月 1日　宗教声楽コース新設。
5月14日　エリザベトコンサートⅠ。
　　－フルート、トランペット、ピアノ－
5月30・31日　第10回大学祭。テーマは「飛躍」。
7月30～8月2日　第1回夏期大学。
9月21日　イルマ・コラッシ声楽公開レッスン。
10月 5日　エリザベトコンサートⅡ。（広島市公会堂）
　　－ピーター・ゼルキン、ピアノリサイタル－
11月2・4～5日　第34回定期演奏会及び演奏旅行。
　　（広島市公会堂、大分、宮崎）
　　ホセ・テホン：《詩編第51番》他
11月 7日　金昌国フルート公開レッスン。
11月28日　ブルーノ・ペラガッティ声楽公開レッスン。
12月 4日　ネオ・グレゴリオ聖歌隊演奏会。（世界平和記念聖堂）
12月14日　クリスマスコンサート。（世界平和記念聖堂）
　　バッハ：カンタータ第154番他

セシリアホールが日本建築業界賞を受賞。

■ヨハネ・パウロⅡ世（幟町教会）

■学生会代議員の合宿(西条学舎)

■謝恩会

テホン学長の広島からのメッセージ　28期　桂　政子（田内）

1981年の定期演奏会は公会堂（現在フェニックスホール）で行なわれ、リストのピアノ協奏曲第1番他2曲に加え、故テホン学長作曲の「ミゼレレメイ、デウス」（主よ我を憐れみ給え）が学長自身の指揮で演奏されました。光栄にも私は長峰先生、内田先生、小野村先生と共にソリストとして歌わせて頂きましたが、心を一つにしてこの祈りの曲が歌えます様にと4人で祈ってステージに立った事が思い出されます。罪を洗い清くなりたいという詩篇51番を声と音で歌い上げた後のアンコールは同じく学長作曲の「ヒロシマ」という小品。それは闇から再び新しく生まれ平和への道しるべとなった喜びを表現し、ゴーセンス神父様からテホン学長へと受け継がれた祈りのメッセージが根底にありました。創立50周年を迎えるに際し、広島で、殊に母校で音楽を学び乍ら教えられる喜こびを与えて下さった神様とテホン学長、そして多くの先生方に改めて心より感謝しております。

1981年の思い出　28期　中本　慶子（徳永）

私たち28期生が他の学年に語れないことを語るとすれば、それは、セシリアホールの前身旧ザビエルホールで入学式を迎えた最後の学年、ということだろうか。板張りのフロアに木の長いすが並べられ、歩くと靴音がコツコツと響いていた。そしてその翌日、学生会主催「新入生歓迎パーティー」での先輩演ずる「ロミオとジュリエット」、「作品研究」と称するゲーム、ダンス、記念の落書き。その3日後にはホールはもう、跡形もなかった。今思うと、それは次々と校舎が建てかえられ、エリザベトが近代化され始め、「古きよき時代」という衣を脱ぎ始める合図の鐘だったように思う。束の間とはいえ、その変わり始める真っ只中で学生生活を送ったとも言えよう。12月24日、ミサの直後にクリスマスパーティー、そのまま貸布団で控え室にざこ寝の伝統も1年生時のみで廃止。「ボロは着てても」というが、やはり「器」によって中身も変わる。近代的な「器」を見上げつつ、「変わるべきもの」「変わらざるべきもの」について思いを馳せている。

1982
［昭和57年］

1月13日　**セシリアホールオルガン披露コンサート。**
　　－カレル・パウケルト、オルガンリサイタル－
5月　水嶋良雄教授、学長代理に就任。（1993年1月まで）
6月19日　瀬山詠子日本歌曲公開レッスン。
6月21日　エリザベトコンサートⅠ。
　　－ピアノリサイタル－
6月25～27日　ピュイグ=ロジェ、ピアノ、オルガン、フランス歌曲公開レッスン。
7月21日　エイブラム、リトミック公開講座。
7月30～8月2日　第2回夏期大学。
10月 4日　エリサベトコンサートⅡ。－ヴァイオリン、オルガン－
10月23日　瀬山詠子日本歌曲公開レッスン。
11月 2日　ヘルマン・フェルクスラーゲン、オルガン公開講座。
11月8～10日　**第35回定期演奏会及び演奏旅行。（姫路、岡山）**
　　グレゴリオ聖歌他
11月20～22日　第11回大学祭。
11月27日　イエルク・デムス、ピアノ公開レッスン。
12月13日　クリスマスコンサート。
　　バッハ：カンタータ第147番　他
　　指揮：佐伯康則

■セシリアホールパイプオルガン

■謝恩会

■演奏旅行移動中（姫路駅）

1982年の思い出　29期　林　隆一郎

3月　グレゴリオ聖歌の旅

ロンドン～ローマ～ミラノ～チューリッヒ～パリを訪れた。ミラノ教皇庁立宗教音楽院では少年への音楽教育を見学し、アインズィーデルン修道院では古写本《E121》の実物に接し、ソレム修道院では聖歌に満ちた修道生活と聖歌の研究活動に感動を覚えた。

11月　第35回定期演奏会、姫路・岡山

女声合唱でグレゴリオ聖歌と管弦楽オーケストラで組曲《展覧会の絵》が公演された。

姫路ではゲネプロ後に国宝「姫路城」を見学し、岡山では日本三大庭園「後楽園」を散策した。

12月　クリスマスコンサート

テホン学長が病気療養のため、代わって佐伯康則先生が混声合唱の授業を担当され、合唱のプログラムはバッハのカンタータ147番の終曲コラールのみであった。

昭和57年の思い出　－豊りある年でした－　29期　久佐木　瑞美（福草）

朝昼夕と教会の鐘の音に導かれながらの学生生活でした。20才で受洗してからは、学内外での黙想会や練成会へ参加することも増え、精神的にも充実した時を過ごすことができました。

この年の出来事としては、姫路での定演。そして1年前にはなりますが、教皇様が広島へ来られた時ミサで聖歌隊として歌えたこと。教皇様は退堂される時2階の聖歌隊席に声をかけて下さったあと、メッセージ入りの御写真を下さいました。忘れられない想い出です。

家庭的な雰囲気を持つ大学と、ひとりひとりを大切にして下さる先生方との多くの関りの中で、57年は社会へ出るための豊り多い年だった様に思います。

1983
［昭和58年］

■卒業演奏会

1月14日　小島美子公開講座。
5月23日　エリザベトコンサートⅠ。
　　－オルガン、ソプラノ－
5月27～29日　第12回大学祭。テーマは「4分33秒」。
　　皆川達夫講演会。「日本人とヨーロッパ音楽とのかかわり」。
6月 9日　ゲリー・カー、コントラバス公開レッスン。
7月30～8月2日　第3回夏期大学。
10月 5日　エリサベトコンサートⅡ。
　　－クラリネット、ファゴット－
11月14～15日　第36回定期演奏会及び演奏旅行。（大阪）
　　デュリュフレ：《レクイエム》他
11月16日　寺本まり子講演会。「ジョスカン・デプレの詩篇モテト」。
12月 1日　村上輝久講演会。「ピアノの構造と演奏」。
12月19日　女子学生寮（セシリアホーム）起工式。
12月19日　クリスマスコンサート。
　　シャルパンティエ：《真夜中のミサ》他

■制服時代の井上先生の授業

1983年の思い出　30期　竹内 恵

大学4年生だった1983年。私の場合一番思い出される事は何かの行事とかではなく、年明けの卒業試験の曲を本当によく練習したということです。曲はショパン「黒鍵」、ラヴェルの「鏡」でしたが、特にラヴェルの曲の魅力にとりつかれ、音色創りに関しては時間の経つのも忘れ、没頭して研究しました。その結果として、大学4年間で初めて成績一番となり卒業演奏会に出演しました。当時ピアノ科で卒演に出られるのは多くて2,3人でしたので、とても光栄であり、嬉しい事でした。

卒業して演奏する機会は多くなり、場を踏む毎に、年齢を重ねる毎に音楽に幅が出てきます。今振り返れば、そういう音楽人生の第一歩を踏み出す時が卒業試験なのではないでしょうか。大学生になって多くの先生方より本格的な音楽の勉強を学び、思い出深い学生生活を通して皆成長していきます。それを学生生活の卒業試験で花開かせて欲しいと願います。

4月28日　**鎌田武夫理事長、勲三等旭日中綬章を受勲。**
5月21日　エリザベトコンサートⅠ。
　　－メゾ・ソプラノ、ピアノ－
5月25～27日　第13回大学祭。テーマは「バリエーション」。
7月 5日　三善晃講演会。「間について－日本の芸術と思想」。
8月1～4日　第4回夏期大学。
9月17～18日　福島和夫講演会。「日本の音楽文献について」。
9月25日　メヤド・テホン、ギターリサイタル。
10月 5日　マヌエル・モランテ、ピアノリサイタル。
10月 6日　マヌエル・モランテ伴奏法公開レッスン。
　　マリア・マリオ声楽公開レッスン。
10月 8日　エリサベトコンサートⅡ。－室内楽の夕べ－
10月30日　星野圭朗講演会。「オルフ・シュールベルクの実際」。
11月 5日　創立35周年記念演奏会。
11月6～8日　第37回定期演奏会及び特別演奏会。（徳山、下関）
　　ホセ・テホン：オラトリオ《ロヨラの聖イグナチオ》初演他
11月12日　市田儀一郎講演会。
　　「バッハのクラヴィーア曲の取り扱いについて」。
11月14日　アンドレ・リュイ、オルガン公開講座。
12月10日　クリスマスコンサート。
　　永井主憲：《マニフィカト》他

■オーケストラの修学旅行にて

■鎌田武夫理事長、勲三等旭日中綬章受勲記念（前列右から4人目）

充実していた大学生活　31期　中島　俊弥

先日50周年記念誌へ寄稿してほしいとの依頼があり、テーマは何かと読んでみると、「昭和59年の思い出」とある。昭和59年とは大学4年の時ではないか。はっきり言って授業にしてもレッスンにしても人生の中でこれほど充実した時はなく、その他に思い出す事柄がない。しかし考えてみると、このような充実した大学生活の基盤を作って下さったのは先生方、特に「一清先生」との出会いであると思っている。大学1年の最初の頃のオケの授業。なぜかトランペットパートのトップを任されて、やや緊張しながら演奏に参加していると、不意に演奏が止まり「おい、おまえ何年や」と私に向かって一清先生の一言。「1年です。よろしくお願いします。」と私。何だろうと思っていた矢先、「ふ～ん。替われ！」と言われ、すぐに上級生が演奏に参加し何事もなかったように演奏が再開されたのである。ショックというか悔しい気持ちが、その後の私を練習に駆り立てたような気がする。幸い山城先生という素晴らしい恩師にも出会うことができ、卒業後も現在に至るまで、仲間と演奏活動を続けている。このような私があるのもエリザベトのおかげと本当に感謝している。

1985
［昭和60年］

■クリスマスミサ

■謝恩会

1月31日　女子学生寮（セシリアホーム）完成。
4月14日　セシリアホーム祝別式・竣工式。
5月16日　宗教音楽学科スコラ・グレゴリアーナ、
　グレゴリオ聖歌世界大会（パリ）で演奏。
5月20日　エリザベトコンサートⅠ。
　－ピアノ、チェロ－
5月24～26日　第14回大学祭。テーマは「再発見」。
6月21日　ナイジェル・オズボーン講演会。
　「私の音楽と現代音楽の様式の発展について」。
7月31～8月3日　第5回夏期大学。
8月25日　旧師小出哲夫神父帰天。
9月23日　ジョイス・マクリーン声楽公開レッスン。
9月30日　間宮芳生講演会。
　「民族音楽の魅力と私の創造」。
9月30日　クサビエ・ダラス講演会。
　「セザール・フランク：オーケストレーションと
　オルガンのレジストレーションの並行関係」。
9月　女子学生寮の定礎板完成。
10月16日　L.フイッシャー講演会。
　「18世紀の音楽におけるバッハ」。
10月19～21日　東洋音楽学会第36回大会。
10月21日　アルノー・シェーンシュテット、オルガン演奏会。
10月28～31日　第38回定期演奏会及び特別演奏会。
　（佐世保、福岡）
　モーツァルト：《レクイエム》他
11月11日　エリザベトコンサートⅡ。
　－テノール、バリトン－
11月16日　ワーナー講演会。
　「いっそう広い音楽性のための音楽教育実践」。
11月21日　井上将興講演会。
　「バッハのヴァイオリン・ソロソナタを中心とした
　演奏解釈」。
12月 3日　林光講演会。
　「ことばと音楽・日本語による作曲と歌唱の実践」。
12月 9日　クリスマスコンサート。
　ラミレス：ミサ《キリオヤ》
12月16日　山崎隆講演会。
　「音楽コンクールについて思うこと」。

エリザベトを包んでいたもの　32期　米山　麻美

エリザベトというBOXのふたを開けてみると、整理されていないおもちゃ箱のように思い出はぎっしりと詰まっている。あれほど1曲、1音に、恋に、友情に全エネルギーをそそぎ込んだ時はなかったかもしれない。

1985年と言えば、エリザベト生活最後の年で、翌春、私達はテホン学長の送り出した最後の卒業生となった。ドラマチックな出来事など特にあったわけではないが、毎日の生活はたくさんの音と共にあり、そこには空や、街や、電車の音、聖堂の鐘の音、青柳屋の匂いなどが濃密に混在していた。私達が、五感にいちばん敏感な時代をそこで過ごしたからかもしれない。

それぞれが、エリザベト期を熱く、また、のほほんと過ごせたのは、どんな人の人格も認め、話を聞いてくれたり、お節介ともいえる関心を示したり、巻き込んだり、誤解したり、包みこんでくれる雰囲気が学生・教師・学校全体にあったからだと思う。それが、カトリシズムかどうかは分からないけれど、たしかにすばらしい時を送ったと思っている。

2月25日　**ホセ・テホン学長退任記念最終講義。**
4月 1日　**ホセ・テホン学長退任、第3代学長にホアキン・ベニテズ教授就任。**
4月 2日　ホセ・テホン元学長に名誉教授称号授与される。
4月26日　ワルター・ハウツィヒ、レクチャーコンサート。
5月 6日　ホセ・テホン前学長送別コンサート。
　ホセ・テホン：《3つのセキディーリア》他
　指揮：ホセ・テホン
5月12日　エリザベトコンサートⅠ。
　－オルガン、テノール－
5月23～25日　第15回大学祭。テーマは「New Departure」。
6月 2日　フリッツ・エモンツ講演会。「ドイツのピアノ教育」。
6月 4日　ジェラール・スゼー声楽公開レッスン。
7月28日　ポール・マッキンリー、サクソフォン公開レッスンと講演。
7月30～8月2日　第6回夏期大学。
10月 1日　高橋紀子講演会。
　「フィレンツェにおけるオペラの夜明け」。
10月 6日　エリザベトコンサートⅡ。
　－ソプラノ、打楽器－
10月 8日　クラウス・フーバー講演会。「現代音楽と宗教性」。
10月24日　繁下和雄講演会。「遊びと音楽」。
11月4～7日　**第39回定期演奏会及び特別演奏会。（松江、三次）**
　グレゴリオ聖歌他
11月11日　伊達純講演会。「楽譜（版）についての雑感」。
11月16日　特別演奏会。（呉市民芸術祭参加）
12月 8日　クリスマスコンサート。
　ライタ：《マニフィカト》他
12月10日　ゾルバーガー、フルート公開レッスン、レクチャーコンサート。
12月12日　佐藤敏直講演会。
　「時代と風土と人と－その中で伝え合うということ」。

■最終講義

■テホン前学長送別ベニテズ新学長就任披露パーティ

■特別演奏会三次公演

■学長職最後の日（3月31日）

昭和61年の思い出「秘書からみた学長交代」　27期　柴田　宏子（前之園）

私は、秘書としてテホン、ベニテズ両学長と5年ずつ仕事をさせて頂きました。

学長が交代するということは大変なことですが、それはただでさえ忙しい時期に重なり、特別な引き継ぎはなかったものの、やはり整理しなければならないものも多々あり、私としては、3月31日の夜まで片付けをし、4月1日の朝を迎えると新学長が部屋に入ってこられて、通常の仕事が始まるという淡々としたものだったという印象でした。

お二方とも学長職という激務にありながら、講義の準備は必ずし、どうしたら学生の為になるかということを常に考えて仕事をされていました。学生に対する深い愛情で、学生にも厳しかったが、それにもましてご自分にも厳しい姿を職員として勤務してみて目の当たりにし、エリザベトの素晴らしさを再確認するとともに、この大学で学び、仕事をさせて頂いたことを誇りに思い感謝しております。

1987
［昭和62年］

■大学祭名物：サンクトゥス

■四川音楽院

■国際セミナー

■西条キャンパス祝別式

5月11日　エリザベトコンサートⅠ。－バリトン、メゾ・ソプラノ－
5月16日　ペルージャ声楽公開レッスン。
5月22～24日　**第16回大学祭**。テーマは「音楽が好き－先天性音楽大好き症候群」。
　高橋アキ、レクチャーコンサート。「エリック・サティについて」。
6月23日　**中国四川音楽院の民族音楽代表団来校、**
　本学宗教音楽学科と交歓演奏。
7月 1日　ホロウェイ講演会。「ドビュッシーについて」
7月 7日　旧師ホセ・ルイズ神父帰天。
7月27～8月1日　第7回夏期大学。
8月17～29日　**第1回国際音楽セミナー**（声楽）。
　ヒルデ・レッセル＝マイダン、カール・レッセル＝マイダン。
9月23日　エンリケ・アヤラ、オルガン公開レッスン及びレクチャーコンサート。
　「スペインオルガン音楽の16世紀から現在に至るまでの歴史的変遷」。
10月 3日　ジャメー講演会。
　「コンピューターと音楽：ブーレーズの最近の作品にみられる傾向について」。
10月 5日　エリザベトコンサートⅡ。－ピアノ、チェロ－
10月10日　**西条キャンパス竣工。**
11月4～7日　第40回定期演奏会及び特別演奏会。（松山、三原）
　フォーレ：《レクイエム》他
　指揮：増田順平
11月10日　山田隆講演会。「日本の音」。
11月17日　森山ゆり子講演会。
　「ピアノ演奏のための良い姿勢とテクニック」。
12月 7日　クリスマスコンサート。バッハ：カンタータ第110番他
12月17日　浅妻文樹講演会。
　「17・8世紀の演奏解釈－バロック時代からモーツァルトまで－」。

ホセ・テホン名誉教授、勲三等旭日中綬章受勲。

増田順平先生との出会い　34期　竹本　由紀（白石）

「羊羹の切り口のように言葉をつなげるのです。」

私達が4年生の時、増田順平先生がやってこられた。増田先生は、混声合唱の授業の中で、いろいろとお話をしてくださった。中でも、「11PM」のスキャットは実は自分なんだとおっしゃり、皆を驚かせたのを覚えている。いつもそんな話をされていたわけではないが、先生のお話はなぜか親しみやすく、隠れファンがいたのも事実であった。しかし、厳しいときは厳しく、特に私達声楽科のように、勝手気ままに1人で歌う事に慣れていたものには、先生が何が気にいらないのかさえわからないこともあり、初めは戸惑いも多かった。授業が進むにつれ、特に合唱経験もあまりない私にとっては、「合唱とは」が少しだけわかったような気がした。現在、仕事上、合唱を指導することも多いが、あの時の授業の中で先生の言葉が、至る所で生きているような気がする。

昭和62年の思い出　34期　中島　一光

エリザベト音楽大学を卒業して早くも10年以上の歳月が過ぎました。当時、希望と不安に胸を膨らませながら入学式に臨んだ事を昨日のように思い出します。在学中、男子学生が少ない事により様々な経験をさせて頂きましたが、中でも一番の思い出は年間行事の全ての演奏会に出演する為に先輩後輩の絆の強さを感じながら共に努力をし、向上して行く素晴らしさを学べた事です。この事がエリザベトの家族の絆であり、代々受け継がれている素晴らしさだと確信します。現在私は鹿児島で大学教員をしており、学生たちによく大学時代の事を話しますが、卒業式の時に男子全員が号泣した話をしますと信じられないといった表情をします。私は、4年間の充実感と在学中に関った全ての恩師や学生たちとの別れの辛さで思わず泣いてしまいましたが、今思えば素晴らしい経験だと思います。まだまだここに記載したい事は山のようにありますが、エリザベト音楽大学を卒業したことを誇りに思うと共に、様々な経験を通して豊かで幅広い知識を与えてくださいました先生方に感謝いたします。最後に、今後の益々の発展を鹿児島よりお祈り致します。

1988
［昭和63年］

1月21日　篠原真講演会。「日本の伝統音楽と世界の前衛音楽」。
2月27日　**村上清人教授最終講義**。「言葉、コトバ、個と場」。
4月 4日　村上清人前教授に名誉教授の称号授与。
4月10日　瀬戸大橋開通。
5月20～22日　**第17回大学祭**。テーマは「Memory−40年の軌跡」。
　ピエール=イヴ・アルトー（フルート）シンポジウムと演奏会。
5月23日　同上、公開レッスン。
6月 1日　旧師ダニエル・コケット神父帰天。
6月20日　エリザベトコンサートⅠ。
　−ソプラノ、金管アンサンブル、声楽アンサンブル−
7月27日　**5号館（現4号館）増改築着工**。
7月27～30日　第8回夏期大学。
8月15～27日　第2回国際音楽セミナー。（声楽）ヒルデ・レッセル=マイダン
9月12～15日　MLAJ（音楽図書館協議会）広島国際会議。
9月28日　マルガレータ・フールホルツ・ベルガ、オルガンレクチャーコンサート。
9月30日　大崎滋生講演会。「シンフォニーの成功と初期の発展について」。
10月 3日　エリザベトコンサートⅡ。−室内楽−
10月24日　橋本周子講演会。
　「教会音楽家の役割と心得−ドイツの例を中心に」。
11月7～8日　第41回定期演奏会。
11月 9日　**創立40周年記念特別演奏会**。（東京）
　ドヴォルザーク：《レクイエム》
　指揮：黒岩英臣
11月11日　ルイス・デ・パブロ講演会。「ヨーロッパの現代音楽について」。
11月14日　エディット・セリグ声楽公開レッスン。
11月21日　ジル・ノット=パワー、ロバート・スペンサー特別レクチャーコンサート。
　「シェークスピア時代の詩と音楽」。
11月29日　中川弘一郎講演会。「コダーイの思想とその教育システム」。
12月 5日　クリスマスコンサート。
　チポーリ：ミサ曲　他
　指揮：佐伯康則

■村上先生最終講義

■大学祭シンポジウム

■4号館着工

■創立40周年記念特別演奏会

ベニテズ先生のこと　35期　梶田　明子

「音楽学とは、音楽を言葉で語る学問のことだ」。

それは、私が底の見えない淵へと投げ込まれた瞬間だった。

そのあまりに深遠な台詞を端から聞いてしまったために、以後、比較的長いはずの夏休みすら「女子大生」としてエンジョイすることもなく、好むと好まざるに拘わらず、年間を通じて毎週のごとく先生の、書物と埃のうず高く積まれた研究室（後には学長室となったが）に通う羽目に陥った。

ヨーロッパ人としての恵まれた文化的な背景に加えて、培われた博識からほとばしる言葉の数々は、どんなに憧れ、羨み、妬んだところで手の届かないものだった。

正面を切って向かったところで今はかなわない、いつか必ず、私は私の言葉を見つけだし、音楽を語ってみせると大学を後にしたが、未だ捜し物は見つからず、眼前に広がる大海の前に呆然と立ち尽くしている。

創立40周年記念演奏会の思い出　35期　横山　良子

「いつものファイルでええか」と40周年記念定期演奏会の朝、当時演奏部長でいらした井上学長にたずねられた。そのファイルとは連日の練習でボロボロとなった楽譜の表紙につけるものである。しかし私は「皆暗譜しましたので必要ありません」と答えた。

その暗譜は私達をたばね、熱心に指導して下さった増田順平先生の笑顔の一言から始まった。総勢150名という今までにない編成の合唱団のうち、声楽科を全員集めても50にも満たない現実の中で、声と心を一つにする為の作業だったに違いない。その為に合宿や自主練習と初めての試みを多く持った。その中で不満の声も多く出たが練習を重ねるごとに自らを励ます声へと変わっていったのだ。そして黒岩先生の指揮とオーケストラとエリザベトにかかわって下さった方々の心が一体となり、私達の声は祈りのレクイエムへと導かれていった。

今でもあの朝の井上先生のびっくりされた表情は忘れられない。そしてあの演奏会での体験は私にとって小さな自信となって心に残っている。

創立50周年おめでとうございます。